

世界的名門カルテット、  
極上の「死と乙女」

Death and  
the Maiden

タカ  
カー  
チ



# 弦楽四重奏団

T a k á c s Q u a r t e t

第1ヴァイオリン／エドワード・ドウシンベル  
第2ヴァイオリン／ハルミ・ローズ  
ヴィオラ／リチャード・オニール  
チェロ／アンドラーシュ・フェイエル

ハイドン：弦楽四重奏曲 へ長調 op.77-2, Hob.III-82 「雲がゆくまで待とう」  
Haydn: String Quartet in F major, op.77-2, Hob.III-82 "Wait Till the Clouds Roll By"

ラヴェル：弦楽四重奏曲 へ長調  
Ravel: String Quartet in F major

シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番 二短調 D.810 「死と乙女」  
Schubert: String Quartet No.14 in D minor, D.810 "Death and the Maiden"

※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

2022.10/1(土) 2:00PM開演 (1:30PM開場) 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール  
A¥5,000 B¥4,000 (税込/全席指定) 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22阪急西宮北口駅南改札ロスグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

発売日 芸術文化センターチケットオフィス ☎0798-68-0255 10:00AM-5:00PM ※窓口での販売(残席がある場合)は7/31(日)より  
月曜休み ※祝日の場合翌日

7/30(土)

インターネット予約 <http://www.gcenter-hyogo.jp>

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。  
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



兵庫県立  
芸術文化センター

関西から  
文化力

# グラモフォンへ初の殿堂入りを果たした極上のカルテット、軽やかな新しい時代を創り出す

1975年にブタペストで結成され、現在はアメリカを拠点として世界的な躍進を続ける名門カルテット、タカーチ弦楽四重奏団。満を持して、再び芸術文化センターにやってきます！

今年は、NYタイムズでも絶賛されたヴィオリスト リチャード・オニールを新メンバーに加え、伝統と新鋭を併せ持つ音色がさらにパワーアップ。ハイドン、ラヴェルの「弦楽四重奏曲」に加え、シューベルトの名曲「死と乙女」を繊細なニュアンスを丁寧に描きながらドラマティックに奏でます。

テクニックや音楽性が高く評価され、グラミー賞をはじめ、グラモフォン・アワードやアメリカ室内楽賞等名だたる賞を総なめにしている極上のカルテット。芸術の秋、このエレガントで贅沢な音色を、ぜひお聴き逃しなく！



タカーチ弦楽四重奏団は1975年にブタペストのフランツ・リスト音楽院で結成され、エヴィアン（現ボルドー）及びポーツマス（現ロンドン）国際弦楽四重奏コンクールで優勝し注目を集めた。アメリカ、コロラド大学で後進の指導に携わる傍ら、ヨーロッパ、北米、アジアなど世界各地で年間約80回の公演を行っている。室内楽の指導にも力を注いでおり、アスペン音楽祭やサンタバーバラのミュージック・アカデミーにて指導にあたっている。数々の録音が賞を受賞しており、ベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲集は05年BBCミュージック・マガジンのディスク・オブ・ザ・イヤー、室内楽賞に選ばれ、グラモフォン・アワードや日本のレコード・アカデミー賞も受賞。デッカ・レーベルにはベートーヴェン、バルトーク、ブラームス、ドヴォルザーク、ハイドン、モーツァルト、シューベルトといった数多くの作品を録音。01年ハンガリー共和国より騎士十字勲章を受章。12年にはハイフェッツやバーンスタインといった錚々たる音楽家と並び、弦楽四重奏団としては最初にグラモフォンへの殿堂入りを果たした。

## エドワード・ドゥシンベル (第1ヴァイオリン) Edward Dusinberre



幼少の頃よりヴァイオリンを始め、イギリス国立青少年管弦楽団のコンサート・マスターを務めた。英国王立音楽大学にてフェリックス・アンドリエフスキに師事。在学中より数々の賞を受賞している。その後、ジュリアード音楽院の奨学生としてドロシー・ディレイ、ピオトル・ミレフスキーの各氏に師事。1993年より現メンバー。

## ハルミ・ローズ (第2ヴァイオリン) Harumi Rhodes



ジュリアード音楽院とニューイングランド音楽院で学び、ドナルド・ワイラースタインらに師事した。シラキュース大学の弦楽器と室内楽専攻の学部長、ジュリアード音楽院のヴァイオリン助教授をつとめ、コロラド大学ボルダー校で助教授に就いている。独特で誠実な音楽作りをする多面的な音楽家と広く認識されている。2018年より現メンバー。

## リチャード・オニール (ヴィオラ) Richard O' Neill



NYタイムズから「エレガントでピロードのような音色」と賞賛されたヴィオリスト。室内楽奏者のみならず、ロンドン、ロサンゼルスなど世界のトップ・オーケストラ、A. デイヴィス、V. ユロフスキー、F-X. ロト、L. スラットキンらの指揮者と共演している。10枚のソロ・アルバムと多くの室内楽のCDをリリース。2020年より現メンバー。

## アンドラーシュ・フェイエール (チェロ) András Fejér



ハンガリーの音楽一家に生まれる。1975年にフランツ・リスト音楽院に入学、エデ・バンダ、アンドラーシュ・ミハイイ、フェレンク・ラドシュ、ジェルジュ・クルターグに学ぶ。同年、3人の同級生と共にタカーチ弦楽四重奏団を結成。以来、創設メンバーとしてカルテットとしての演奏活動を牽引し、ソリストとしても活躍している。

### 《チケットご購入のお客様へお願い》新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします

※芸術文化センターでのご購入時には、来場者情報把握のため、先行予約会員（無料）へのご登録をお願いしております。

なお、お一人様2枚までとさせていただきます。

※37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。

※マスクを着用されない方はご入場いただけません。（マウスシールド不可）

※感染の再拡大等により、公演の中止や、出演者、公演内容、座席配置等が変更となる場合がございます。

ご来場前にウェブサイト掲載の（当センターをご利用のお客様へ）をご確認ください →



### アクセス

